**テーマ：桜川市観光中長期計画の策定について**

　●日時　　　平成２６年７月１０日（木）19:00-21:00

　●場所　　　真壁伝承館

≪議事メモ≫

まず、どういう形で進めていくか？

意見①　組織ができていないと話が始まらない→組織作りから始める

実行委員長、副委員長（各地区1名）でどうか？

意見②　どういうものを作るか決めないと話が始まらない

意見③　会議の時間によって出席者が限定されてしまう恐れがある

飲食店は夜だと出席しにくい→昼・夜に固定にしないというのはどうか？

↓

やってみないとわからない

意見④　進行役は順繰りで決めていくのも1つの方法（司会は発言しにくい）

　　　　当日の意見交換の結果、今後は順番で進行役を担うこととなった。

意見⑤　組織をどう生かしていくか

　　　　・中長期計画の目的

・観光協会の指針作り

・具体的な目標をみんなで決める

・計画を作ることが目的ではない、実行することが目的

・それぞれの活動内容の共有・ベクトル合わせ

・全体では何をやるかが見えていない

・お互いを知る時間が最初にあってもいい

・みんなが思ったことを自由に発言していける場がいい

・役所、商工会のやり方を切り替えていかなくてはいけない＝人的入れ替え

・進行、段取りを事務局に任せない

→補助金が減るor切られても継続できるやり方

◆観光協会の予算について

（意見）

・会員としては予算・決算の内訳は知っておいたほうがいい

・補助金以外の目に見えないお金を明確にしていこう

・有意義な使い方があるはず

・補助金に頼らない

・予算を見直すべき　→　どう見直すか？

・観光面で伸ばしていけるものを見つけるのがこの会議の目的

・予算があるからやっているようなイベントがあるのが気になる（予算消費？）

・外から人を呼び込みお金を使ってもらえるような使い方

・観光客が来たいと思えるまちにしていく使い方

・各地区の文化を見直す

・補助金以上の収益をあげているところもある

・日本人の国内旅行・訪日外国人の増加

・納涼大会について

→協賛金を集めないこととなったが、それは補助金に頼り切るやり方ではないか？　協賛金を集めるのが大変であれば、集めてくれる人を探すことをしてもよかったのでは。

・お金を落としてもらうことだけが観光なのか？

◆10年後のあるべき姿について

・桜川市の観光→いまだに地区ごとに分かれてしまっている

相互に発信していくべき

・推計では、10年後（2025年）の人口：約37,500人、生産人口：50％弱

　高齢化率：37％

・企業誘致に力を入れているが、確実なことではないので身の丈の活動が必要

・岩瀬と真壁が物理的に離れているのは事実

・水戸線・IC・国道・桜がある岩瀬は真壁と比べて恵まれている

・岩瀬と真壁が独立していってほしい

　→地域のブランド力をそれぞれ常に伸ばしていくことが大事

・今ある資源に依存しないこと

・各地区の連携が大事

・すべての地区が同じことをやってもうまくいかない

・合理的にイベントをやめるだけがすべてではない

・ほとんどの観光地にはここを巡ってくださいパンフレットがある

・市内の№１スポットは雨引観音

・大和のほかの観光資源

・観光協会が全体像を示せる組織になれるといい

・それぞれ伸ばしたものを連携させていくのが観光協会

・よそから見て気づいたことを指摘することが観光協会でできるとよい

・真壁の人がサクラを意識する

・旧町村を超えた通年の観光を意識する

・岩瀬の桜について観光という概念ができたのがつい最近。地元の人は桜＝観光とい

う概念があまりない。まず地元の人に地元の観光資源を知ってもらえるようにPR

していくことが大事

・本当に人が来てほしいのか？どういう人に来てほしいのか？そこを共有する

・10代、20代の意見を盛り込みたい（アンケートを取る）

◆参加者一人一人の観光に対する思い

・目が肥えた観光客への対応を考える

→遠くからわざわざ来た人が「なんかいい」と思える場所を作る

→九州・北海道からも来ている

・市を成り立たせる手段の一つ

→里山と街並みの景観を残すための観光

→農業・林業・町並みが成り立つような市

・次世代が夢を描けるような場所

→若い人をどうやって仲間にするか？？？

→世代交代ができない　跡取り・子供が市内にいない

・観光地はメディアが作るもの

→政府が外国からの観光客を呼び込んでいる

→桜の時期以外に桜について知ることができる美術館がない

→自分の住んでいるところのいいところをPRできるようにしないと観光地にはな

れない

・岩瀬駅前に関しては楽観的なビジョンが見えない

→5年後10年後に市内で生きる人々が本気で考えていってほしい

・里山の山桜＝観光地ではなかった

→歴史的な背景は強いけど、地元の人々が桜を盛り上げようとしてその都度つぶれ

てきた歴史

→桜を守らなければ観光の意味がない！・・・行政にも保存に協力してもらいたい

・短期的な取り組みでは成果が生まれるかわからない

→ソメイヨシノとは違うマニアックな桜

→のんびり桜への知識を学んで楽しんでもらいたい

→地元の案内ボランティアが発信する観光（着地型）

→メディアを見てきても案内がないとつまらないと思って帰ってしまう

→着地型観光ができれば伸びる場所が市内にはたくさんある

・ないものをねだってもしょうがない、特別なことをしても続かない

→あるものとあるものを融合させる

→今までやってきたことを大切に、みんなが対話をして答え探しをしていきたい

→住んでいる人が普段していることが来た人にとってはおもしろいもの、特別なも

のかもしれない

・ひなまつり：よそいきの真壁、よそいきの住みたいまち

→よそいきをつくるのは楽しい（人の目）

→まかべ＝閉ざされている町、閉ざされているからほかの人にとっては面白い

→いろいろな国から人が来るのが自分にとってもおもしろい

→交流による文化の向上

・市内で生きていかなくてはいけない

→経済活動をしていかなくてはいけない

→子供に受け継がなくてはいけない使命

→子供が帰ってきたくなるようなまちをつくる

→子供が誇りに思える出身地

→観光という意識がない人、後継者につなぐという意識がない人は岩瀬にも真壁に

もたくさんいる（ほとんどの人）

・未来の観光：勝手に人が集まってくる（人を集める、のではない）

→出会った人に魅力があるまちがいい

→若い人・住んでいる人が誇りに思えるまちをつくること

◆本委員会の組織について

・20代30代の人をもっと入れる

・まずはこの組織の中で運営していく

・議事進行に関しては持ち回りとする（決定）

・そもそもこの会議で中長期計画ができるのか

◆実行委員長の選出について

・それぞれいろいろな思いがある中でまとめるのは大変

・はじめはとりあえず発案者がやったほうがいい？（思いがあるはず）

・そもそも長が必要なのか

・連絡は事務局が行うのか？

→自分たちの組織は自分たちで守っていかなくてはいけない

・長がいないと総会の時に発表する人がいなくなる

・3つくらいのグループで議論してそれをそれぞれ発表する方式

・どんどん仲間を増やしていきたいと思う。一方で抜けていく方もいるだろう

・若い人を観光協会に入れて、集まりに参加してもらう